

**【ACL 導入事例】**

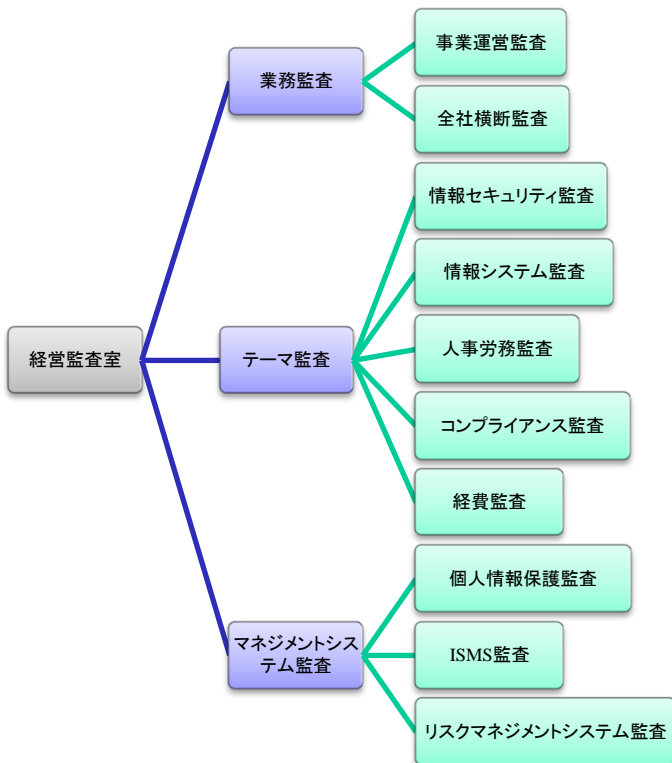
# NECエンジニアリング株式会社 様

**CAAT を活用したリスク管理への挑戦。経営に貢献する監査活動の実現に向けてデータ監査ツール ACL を導入し、監査効率の向上や監査の可視化を推進、さらに監査部門ならではの分析能力を発揮するなど成功しています。**

NEC グループの一員として「ケータイから宇宙まで」幅広い分野での開発経験を事業の基盤として展開。長年の開発業務で培った技術力を駆使し、クラウド時代におけるお客様のニーズの実現に貢献している。国内に 本社を中心に 6拠点を持ち社員数は2,000名超。

**■ 監査体制について**

同社では、社長の直下に独立して経営監査室を配置。本社を含む6拠点の業務監査およびマネジメントシステム(MS)監査を実施している。



**■ 監査ツール「ACL」導入に至る動機**

**● 課題と動機**

監査現場では、常にデータ上に現れるリスクを認識し、監査を実施しなければならなかったと当時を振り返る。「従来の MS-Office 系ツールでの分析では、担当者の習熟度によって実行手順や手続きの質にバラつきが出るという点がどうしても避けられなかった。また、毎回同じ手順を踏まなければならない、大変な非効率さを感じていました。」  
(NECエンジニアリング株式会社 経営監査室 マネージャー K氏)

そして、研究を重ねた結果、「エージーテックの実践セミナーへの出席や、評価版を利用することにより、チームに蓄積してきたデータ分析によるリスク評価の視点を全て一つのツールに入れ込んで“必要な時に即座に分析を実行できる”体制を作れるツールだと確認できたため採用を決めました。」  
(K氏)

**■ ソリューション**

データ監査ツール「ACL」の魅力について、「データ処理スピードの早さもありますが、一度画面操作を行った手順がログという記録に残り、そこから再実行プログラムのスクリプトを作り出せる操作の容易性は大きな魅力として映りました。」(K氏)

同社では、2007年3月頃、エージーテックで開催された無償のハンズオンセミナーの参加を経て、加速的に導入が進んだという。「検証段階では、優れたツールであることは理解していたが、実運用に入った際、どれだけの効果が実際に望めるかは正直、未知数でした。周りからも大きな期待をされない中でのスタートでした(笑)。そういう意味では、導入までの苦労はなかったかもしれません。」(K氏)

**■ データ監査ツール「ACL」導入の効果**

**● コスト面**

データ監査ツールの導入前と導入後のコスト面での効果について、「正直に言いますと、当初はコスト削減の意識よりもチェックしたい視点でいつでも分析を実行できる安心感を求める部分が大変強かった。」  
(NECエンジニアリング株式会社 経営監査室 室長 N氏)

現在では、多くのリスク分析視点を ACL 導入で一括管理することができるようになったため、業務効率の改善をはじめ、多くの無駄を排除し、数字では表せない効果を実感している。

**● パフォーマンス面**

同社がデータ監査ツール「ACL」導入で実行している一例です。

- ・複雑な計算ロジックの再計算と数値分析
- ・特定条件に合致したデータの抽出
- ・関連データの整合性確認
- ・操作ログのスクリプト化

**経営監査室では、従来の監査プロセスが大きく変わったと断言する。**  
(K氏)

「従来の監査プロセスから脱却し、監査の視点で複数部署のデータ分析の実績を積み重ねることにより、ニーズの再発見、他部署からの分析依頼が寄せられるなど、経営に貢献する監査部門として更に一步前進し、会社全体への貢献度が増しているのを実感しています。」  
(経営監査室 室長 N氏)

前記の複雑な手続きを従来の MS-Office 系ツールで行うには、途中でデータの書き換え、扱うテーブルの間違い、データ量制限によるデータ分割などの様々なリスクが発生していた。「ACL の導入により、これらのリスクを負わずに分析が進められるようになりました。また、データ分析結果に基づくサンプリングをしていることから、抽出されたデータは監査視点として定めた特定条件に合致していることはもとより、同時に付加情報や補足情報を得られることから、最も時間を費やしてきた事前調査が効率的に進めることができるようになった効果は大きいと感じています。」(K氏)

「当社での一つの使用例では「経理主管のデータ」と「人総主管のデータ」を突合して数値比較を行う工程があります。複数の部署が管理するシステムデータを入手して分析比較をする訳ですから、容易にデータを書き換えできてしまうような分析体制では提供部署や経営層の信頼を得ることはできません。ACL がそもそもデータの書き換えができないツールであることも監査の信頼性に大きく寄与していると思います。」(K氏)



#### ● 導入利点

ACL での分析は客観性のある操作ログが残るため、実行結果と工程の見直しが可能になり、分析工程と出力されたリスクの因果関係について明確な説明ができるようになるため、現場から上長へのレポートもスムーズになり監査内での透明性が向上した。「ACL で処理するリスク分析視点が一定数に到達した時点で、経営層にも ACL 分析結果のレポートを行うようになりました。」(N氏)

「監査の視点で複数部署のデータ分析の実績を積み重ねることによって、ニーズの再発見、他部署からの分析依頼が寄せられるなど、監査部門の会社全体への貢献度が増しているのを実感しています。」  
(N氏)

#### ■ ACL サポート、トレーニングなどのサービスについて

経営監査室では、特に導入後のトレーニングを有効活用していた。「自社でやりたいことにはどの機能を使用すればよいかを理解するのに効果的でした。また、操作ログからそのまま作成したスクリプトの冗長さ(処理上のムダ)の見直しや、更に高度な自動処理を実現するために 2010年と 2011年に 1名ずつ受講した上級 303コースでは、効率的な処理のための新しい関数の知識や、自社スクリプトの見直しに役立つ文法的な知識を正確に身につけることができ、大変効果的でした。」(K氏)

#### ■ 結論

企業活動のグローバル化、IT システムの発展と横断する組織の複雑化などを背景に、ますます事業領域の拡大が進んでいます。それに伴い、内部監査に求められる責任は重要度が増すばかりです。同社経営監査室では、経営に貢献する内部監査機能の構築と強化を更に目指し、活動を続けています。

「データ監査ツールの導入により、今までの監査業務の効率化の実現、監査期間の短縮、スタッフの生産性の向上など、さまざまな利点をもたらすことができました。」(N氏)

#### ■ 今後の展開

- ・ACL 拡張計画
- ・適用範囲拡大の可能性の更なる模索と実施

「今後は監査部門で社内主管部門からデータを入手して分析するというレベルから一步踏み出し、スタッフ部門自身がモニタリングを行える体制を ACL のソリューションを活用して実現していく構想を持っています。ACL およびエージーテック社には、今後の発展的な活用方法を実現するためのソリューション提供、支援を期待しています。」(N氏)

※ ACL および ACL のロゴは ACL Services Ltd. の商標または登録商標です。  
※ その他記載された会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

URL <http://www.acljapan.com/>

ACL もしくは事例内容に関するお問い合わせ先  
ACL 事務局 [info@agtech.co.jp](mailto:info@agtech.co.jp)



Smart Software, Smarter Deployment  
株式会社エージーテック

東京都千代田区神田錦町1-21-1 ヒューリック神田橋ビル3F  
TEL:03-3293-5300(代) FAX:03-3293-5270